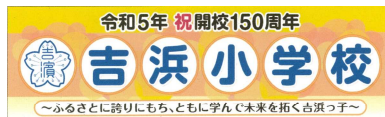


花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和5年6月27日 No.29

令和5年度第1回学校関係者評価委員会

高浜市内の小・中学校では、各学校ごとに学校関係者評価委員会を設置し、学校、家庭、地域が三者一体となり協働して学校づくりが展開されるように、委員の皆さんから指導助言をいただきながら学校運営の改善を図っています。本日は、まず学校側から、「学校経営方針」「実現に向けた方策」等に基づき、令和5年度の推進計画について説明をさせていただきました。その後、全学級、全教室の授業の様子をみていただき、委員の皆さんからご意見やご感想をいただきました。以下に紹介します。



<伊藤 宗 様：令和3年度PTA会長>

吉浜小学校学校関係者委員会委員長として、会の進行をしていただきました。

<坂本直敏 様：令和4年度PTA会長>

吉浜小学校学校関係者委員会副委員長として、委員長の補佐をしていただきました。

<加納誠司 様：愛知教育大学教授>

吉浜小学校の様子はこれまでもたくさん見せてもらっています。子どもたちはがんばっていましたが、吉浜小学校の子どもたちはふだんからこういった姿勢で学んでいます。主体的な姿もたくさん見ることができました。この姿はたまたま見られたのではなく、これまでの蓄積があるからこそです。一人一人を大切にしながら進めてほしいと思います。その中で、こんなことはどうかというお話をさせていただきます。学級掲示等に差があったと思います。子どもたちの学びの足跡がある教室を創ってみたいらどうでしょうか。子どもたちの取組への朱書き、お忙しい中ですが、子どもたちの取組に教員のレスポンスがあると、次の学びや育ちにつながるのではないかと思います。

<黒野盛聖 様：元吉浜小学校長>

その授業の目標が黒板にきちんと示され、子どもたちにとってめざすところがわかりやすかった。校内はよく整えられていて、これは昔からの吉浜小のよさだと感じています。昨年、参観したときに思ったことは、私たちが何人かで教室を見て回っても、子どもたちはほとんど関心を示してくれませんでした。それは授業に熱中していたからだと思います。今回はそうとは言えない様子が少し見られました。次回、どんな様子なのか、見させてもらいたいと思っています。私は現在、学校給食の事務の仕事をしているので、市内の学校給食の様子が分かります。残食では、市内の学校の中で吉浜小学校が一番少ないです。よく食べることはいいことで、食べないと活動も考えることもできません。たくさん食べ、さらに伸びて行ってほしいと思います。対話活動はコロナの状況も落ち着き、今日もグループでの話し合いがありました。しっかり進めてめざす子どもを育ててください。

<内藤尚仁 様：吉浜まち協子どもGリーダー>

私たちは地域の「あいさつ活動」に交差点などで取り組んでいます。吉浜小学校の子どもたちは気持ちのよい挨拶を、私たちよりも先にしてくれます。すばらしいです。本日、授業を見て回る中で、5年生の教室が空いており、その教室の机の上には何一つ出ていなくて、身の回りをきちんとして活動場所に行ったことが分かりました。落ち着いた生活ができていることがよく分かります。体育館では、電子黒板に映した映像に合わせてダンスをする体育の授業を見ました。子どもたちは楽しそうでしたが、前方両端の子どもたちにとっては見にくかったと思います。広いところで行うには、より大型のモニターやスクリーンなどを活用するとよいと思います。

<横井光義：民生委員>

地域の一人としてお話します。4月に園児たちが1年生になり、その1年生の下校時の見守り活動に取り組みました。地域が1年生の下校を見守る、とてもよいことだと思いましたが、その中にとっても長い列がありました。この列は児童クラブなど、一時預かりに行く子どもたちの列だということが分かりました。一時預かりに行く子どもたちが安心感のもてるような地域としての取組ができないものかと思っています。学校の思いを聞かせていただき、学校も家庭も地域も安心できるような取組をやりたいと思っています。授業を見て、子どもたちは元気で明るく、楽しそうでした。先生にも自分の考えをしっかりと伝えていました。

<近藤陽子 様：高浜中学校校務主任>

子どもたちは楽しそうに授業を受けていました。その学習に魅力があること、子どもと先生とがよい関係を築いているからこそその姿だと思います。学級目標や学年目標がよく考えられていて、それぞれにカラーがあって面白いと感じました。学年が上がるほど、造語が入っているなど、みんなで相談して決めたのだろうということが分かります。学級や学年目標は決めることではなく、決めた後が大切だと思います。例えば、行事の後など、目標に照らして振り返ることが必要です。がんばってください。ところで、学年目標はどのように決めていますか。中学校では、各学級の室長が集まって意見を出し合いながら決めています。私が小学校に勤務していた頃は、子どもを集めて決めたこともありますし、先生の思いを込めて掲げたこともあります。対話を中心に聴き合い、学び合う授業づくりに取り組んでいて、「ことばのツール」という掲示のある特別教室もありました。特別教室すべては大変ですが、あるといいですね。また、「聴き方名人・話し方名人」という掲示も見ました。昔、作成したものが大事にされているものもありました。こういったものも大切にしながらめざす姿に迫る掲示を充実させてほしいと思います。

<杉山昌子 様：吉浜幼稚園長>

子どもたちの意欲が高く、先生との関係のよさを今年も感じました。1年生の体育の授業では、園から特別支援学級に進級した子どもたちも交流していました。支援の先生方がついており、安心しましたが、音楽の音量が大きいのは彼らにとっては厳しかったのかなと思います。動きが速すぎるのはついていけないかもしれません。2年生の粘土、基本的に一人で制作していましたが、グループを組み、互いの作品が見えることで、刺激し合うよさもあるように思いました。

<小林美里 様：吉浜北部保育園長>

久しぶりに学校の授業を見ました。園から進学した子の様子もみることができました。一生懸命な様子を見て、嬉しく思いました。教師の授業のやり方や工夫、雰囲気づくり方で子どもが変わっていくと思います。聴くことは大切だと思います。授業を通して、聴き方などを意識させていくとよいと思います。

<新実貴子 様：話輪和の会代表>

体調不良によりご欠席でした。